

胃がんハイリスク検診が加わりました！無料です —西東京市医師会が無料で行ないます！—

なぜいま胃がん対策なのか

胃がんは

全国：罹患率1位、死亡率2位です。対策が急がれる理由の一つです。多摩北部地域でも高い進行胃がん死亡率が認められています。

また、西東京市では、検診受診率が非常に低い受診率で推移しており、早急な対策が急がれます。

一方、胃の精密検査、治療は、内視鏡検査の目覚ましい発達によって進んでおり、胃がんは早期発見、早期治療する事で治癒率は90%以上とされています。

西東京市医師会では、①ヘリコバクターピロリ菌 ②ペプシノーゲンの測定と、胃の精密検査（内視鏡検査）を組み合わせる胃がんハイリスク検診を取り入れ、胃がんの早期発見を行ない死亡率の改善などをめざします。

胃がんハイリスク検診の特徴は？

1. 西東京市市民の皆様のために、西東京市医師会が公益事業として、無料で実施いたします。
2. 市の検診（特定健診等）時に行なう採血を、一部利用するだけですので負担がありません。
3. この検診の結果判定は、一生涯適用されます。
4. 原則一度の受診機会ですので是非お受け下さい。

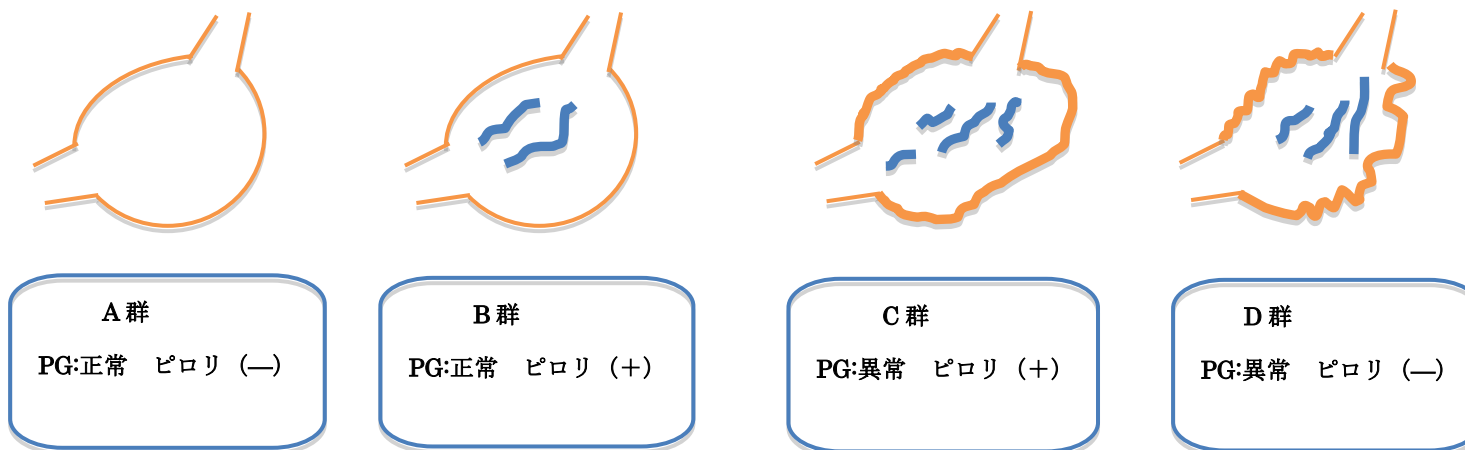
胃がんハイリスク検診のしくみは？

血液検査で、①ヘリコバクター・ピロリ菌と②ペプシノーゲンという2つの項目を測ります。

発がんにおいて、胃がんはヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）感染と深く関わっています。ピロリ菌感染がない人は胃がんになることが少なく、ピロリ菌に感染すると慢性胃炎から萎縮性胃炎になり、さらに腸上皮化生という変化（いわゆる胃の老化）が起こってくると胃がんになる危険性が高くなっていくことが知られています。そこで簡単な血液検査でピロリの感染の有無と、胃粘膜萎縮の度合いを示すペプシノーゲンを測定することによって胃がんになるリスクを調べ、自分の胃が胃がんになりやすい状態にあるのかが判定できます。

両者の数値で将来あなたが胃がんになりやすいかどうかをA、B、C、Dの4段階にグループ（群）分けする 検診です。A群→B群→C群→D群の順に将来胃がんになるリスクが高まってきます。

この「胃がんハイリスク検診」の結果に基づいて、主治医の先生より内視鏡検査や市のバリウム検査が勧められます。A群では、市のバリウム検査、B～Dに進むに従って、1～3年間隔での内視鏡検査が勧められます。



慢性の萎縮性胃炎の進行（胃の老化）＝胃がん発生の確率＝精密（内視鏡）検査の必要性

図1 萎縮性胃炎の進行と群分けのイメージ

数年～数十年で進行

胃がんハイリスク検診でご安心・理解頂きたい事

1. この検診は、いま胃がんになっているとか、将来必ず胃がんになるという訳ではありません。どうかご安心下さい。
2. この検診結果は、あくまで、かかりやすさの指標です。また、胃がんは、数年から数十年の間で発生します。よって、今後の継続した内視鏡検査等を受けて頂く事で、胃がんの早期発見につながります。
3. 大切な事は、将来の継続した二次精密検査（胃内視鏡検査）を必ず受けて頂く事です。
4. たとえリスクの少ない判定であっても、絶対に胃がんにならないとは限りません。良い判定結果でも、市の胃がんバリウム検診などを受診して下さい。
5. いま胃の具合が悪い、除菌歴がある、PPI という胃薬を内服中の方、胃を切除した方、胃の病気の既往がある方は、問診票に必ずご記入頂き、結果に関わらず胃の二次精密内視鏡検査をお勧めいたします。
6. この検診の結果に基づいて勧奨される二次精密内視鏡検査は、保険診療となります。
7. ピロリ菌の除菌療法は、感染があるからといってすべての方が保険診療で行なえるとは限りません。個々の病状によって、認められる条件があります。詳しくは、医師にご相談下さい。